

コラボレーション

..... c o l l a b o r a t i o n
協働

P.2 特集
企業とNPOの新たな協働を目指して
～活動資源マッチングシステムの構築～

P.5 紹介します!ボラセンの取り組み
「香美町ボランティアセンター」

P.6 クローズアップ!助成団体
「特定非営利活動法人 愛逢」
「特定非営利活動法人
アップストリーム障がい者支援センター」

P.7 広がれ! ボランティアネットワーク
「『高校生』と『地場産業者』のいい関係」

P.8 広がれ! V-NET

P.9 連載 NPOワンポイントアドバイス
「NPOのマネジメント」
やってみよう☆情報発信～コラボネット～
「『コラボNEWS』って知ってる?」

P.10 プラザ通信
「NPOパワーアップ事業助成」
「NPO活動応援貸付 2次募集のご案内」etc.



企業とNPOの新たな協働を目指して ～活動資源マッチングシステムの構築～

これまでプラザは行政セクターとボランティアセクターの仲人役を担ってきましたが、今後は企業セクターとの仲人が重要になると考えられます。そこで、今回は新しく始まった活動資源マッチングシステムをご紹介します。企業市民と草の根市民活動の間に、いい関係が生まれるきっかけづくりを目指す試みです。

企業とNPOの新たな協働を目指して

活動資源マッチングシステムの構築

ボランティアグループ・NPO法人を取り巻く現状

兵庫県内には、現在、5400を超えるボランティアグループ（県社協登録・把握分）と、1000を超えるNPO法人が多岐にわたる草の根活動を各地で展開し、よりよい地域社会の実現を目指して活躍しています。以前は福祉の領域での活動が中心でしたが、震災以後は環境、防災、まちづくり、子育て、国際理解など市民生活全般にわたって活動分野が広がってきました。

《厳しい財政状況》

これら団体の収入規模をみると、年間30万円未満のボランティアグループが6割以上を占め、（平成16年度県民ボランティア実態調査…ひょうごボランティアリーブラザ 以下「HVP」）、NPO法人の5割以上が500万円未満（平成15年度NPO法人データブック…HVP）という状況で、どの団体も資金不足に悩んでいるのが実態です。

しかし、内閣府国民生活局がまとめた「平成16年度市民活動団体基本調査」

では、NPO法人及び任意団体を合わせた全体の7割が500万円未満で、兵庫県内の団体は、まだ資金面で恵まれていると言えます。その理由はともかく、新しい「公」領域を担うNPOセクターを財政的に支えるための恒常的なシステムの構築が強く求められています。

例えば、公共政策の転換を試みる旧社会主義国であるハンガリーでは、所得税の1%を納税者が、自分の選択したNPO法人に寄附できる仕組みがあります。この仕組みは、平成8年に創設され、納税者の40%がNPOへの寄附を望み、その額は、年間20億円に上っています。

また、米国では、平成13年度の寄付総額が28兆円を超え、日本の60倍以上になります。そのうち、個人の寄付が3/4を占めていることが驚きです。

ようやく、我が国でも、平成17年度から、千葉県市川市で、住民税の1%

を登録されたNPOに市民が寄附でき

る仕組みがスタートしましたが、まだ、緒に就いたばかりです。平成18年4月には税制改正がありました。2万7千を超えるNPO法人のうち、認証NPO法人は40に満たないのが現状です。NPOに対する税制優遇措置を併せて、NPO活動の発展・拡大には、こうした欧米諸国のように、市民自身がNPO活動を支える寄附文化の醸成が急がれるところです。

《CSRの普及》

前号でも取り上げましたが、1990年代から世界的に広まってきているCSR（企業の社会的責任）が、日本社会にも大きな影響を与えています。CSR活動の一環として地域活動に取り組んでいる企業は6割を超えており（企業の地域活動とNPOとの連携に関する実態調査研究 2006年・3月 中間報告…HVP）、現在、取り組んでいない企業でも検討中のごろが多く、より一層の広がりが期待さ

れています。

本来、企業は、その活動を通じて利潤を求め、雇用の確保を図るという原理のもとに行動していますが、CSRは、本業における自然環境に配慮する取り組みの延長であり、同時に存続していく上での社会的責任を担うことを通じて企業イメージのアップにつながることも、その促進要因として考えられます。

こうした時代背景のもと、ひょうごボランティアリーブラザでは、平成17年度から、地域課題の解決とまちの活性化に向けて、先駆的事例の奨励を通じて、企業とNPOの連携・協働を推し進めるための事業を新たに設けました。資源の有効活用やリサイクルなどの環境に配慮した取り組みやまちの活性化に寄与するものなど様々ですが、組織原理の違う企業とNPOとの連携・協働は、相互の活性化に向けて大いに役立っています。

ただ、こうした動きは全国的にも数少なく、「企業とNPOの協働の促進」

には、協働することのメリットと事例の普及啓発とともに、互いにつながるための仕組みや交流の場づくりが必要であることから、その手法の一つとして、今年度から「ボランティア活動資源マッチングシステム」をスタートさせました。

ボランティア活動資源 マッチングシステムとは

企業・労働組合、NPO等が有する「資機材」「活動スペース」「人材」「ノウハウ」等の活動資源や活用ニーズをマッチングさせ、NPO活動の支援層を増やし、NPO活動の基盤強化を図る仕組みです。

例えば、企業の有する資機材（事務機器や音響機材など）や集会スペースなどの提供を受けてNPO等が有効活用したり、NPOスタッフが企業のイベントやボランティア講座に出かけたり、定年間近の社員（従業員）をNPOが受け入れるなど、双方向の個別のマッチングを考えています。

1 システムの構築・運営



システムが、継続的に機能していくためには、趣旨に賛同し、積極的に協力したい“思い”を持つ企業・NPOへの働きかけと、それらを結びつける

ネットワークづくりが必要です。そのため、ボランティアプラザ内に、主にシステム構築のビジョンづくりを担当する「企画委員会」と、システム運営の実践・交流を担う「運営委員会」を設け、この2つの組織が車の両輪となつて試行的に活動を開始します。

《企画委員会》

企画委員会（委員長：當間兵庫県立大学経営学部教授）では、①企業・労働、NPO等に対する資源の「提供」、②「利用」の働きかけの方法 ③提供資源と利用希望資源の登録（リスト化）方法 ④提供資源・利用希望資源のマッチング方法 ⑤マッチングシステムの普及啓発の手法等（対象範囲、時期、普及媒体） ⑥資源提供者に対するフォローアップ手法（活動成果報告、企業・NPO名公表、情報提供等）など、仕組みづくりや運営について、中・長期的視点から基本的事項を企画・検討、調整を行います。

〔企画委員会構成員〕

- 企業・労使団体の代表：兵庫県経営者協会、連合兵庫等の労使団体等
- NPO・ボランティア：兵庫県内中間支援活動NPO
- 関係支援機関等：兵庫県内市町社会

福祉協議会、学識経験者、兵庫県参画協働課

《運営委員会》

運営委員会は、企画委員会と共に、企業やNPO等有する資機材や人材等の活動資源をマッチングさせる仕組みづくりの橋渡しを行う実践部隊として位置づけています。

（役割は）

- ① ケーススタディの企画・実施の直接的な関わりを通じた課題検証と円滑かつ効率的なシステムづくりの提案
- ② 企業・NPO群の輪を広げ、“人と人”組織と組織“の緩やかなネット

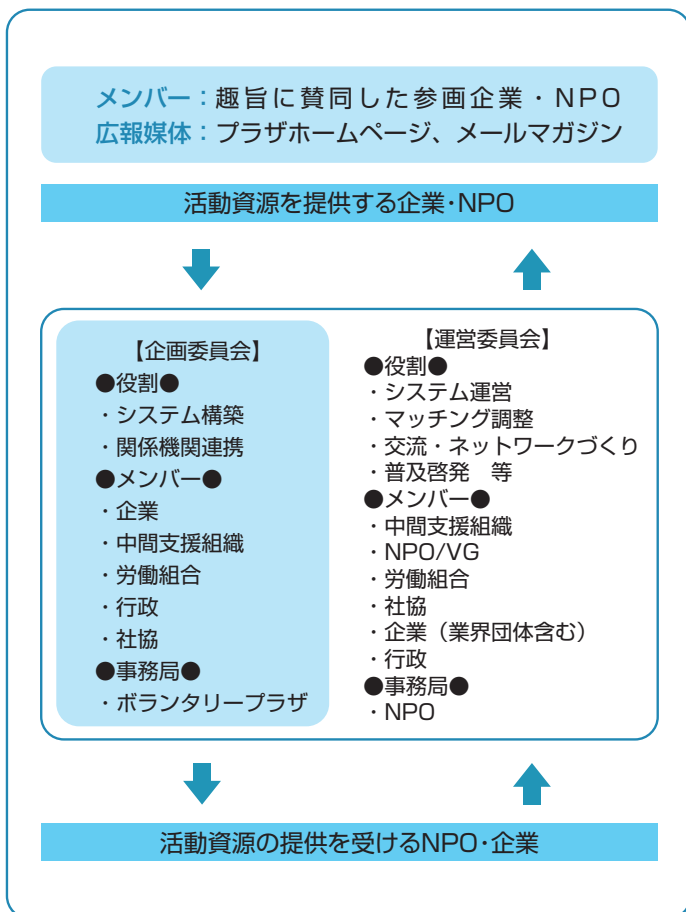
ワーク構築のための普及啓発活動の検討と実践

- ③ CSRの促進とNPO活動基盤の強化につなげるための機会（フォーラム・セミナーなど）づくりの企画と運営（委員構成は）

企画委員会メンバーの他、地域、分野、セクターを超えて、このシステムの趣旨に積極的に賛同するボランティア・NPO団体、企業、関係行政機関職員など、20人規模で構成します。

なお、事務局機能については、システムの普及性及継続性をより高め、効果的な運用を図るため、ボランティア・市民活動のニーズや活動実態に精通し、

活動資源マッチングシステムイメージ図(案)



創造的なアイデアや活動ノウハウを有するNPO法人等にアウトソーシングします。

2 システムの基本的枠組み



① 双方向システム

提供者側が企業、利用者側がNPOという、与える側、与えられる側という一方通行のシステムではなく、「企業とNPOの新たな協働関係」を築くため、企業等有する資機材・人材等、NPOが有する専門的人材等について、互いが提供・活用する双方向のシステム(WIN・WINの関係)とします。

② ツープラトン方式

ある一定の基本ルールを定めた上で、実際にマッチングをモデル的に行い、課題把握し、今後の方向性を探りながら、全体のスキームを段階的に創り上げていきます。

例えば、資機材については発生(供給)主義を、人材についてはリクエスト(事前登録)方式を採り入れるなど、個別案件に、柔軟に対応できるツープラトン(併用)方式を考えています。

③ 会員制の採用

最初は、試行的にNPO等について、

コラボネット登録(地域づくり活動情報システム)を加入要件として会員制を採用するなど、既存のシステムの活用と併存を通じて、このシステムの信頼性と事務の効率性を高め、“小さく産んで大きく育てる”を基本目標として運営します。

3 モデル運用第1号



ケーススタディとして、神戸市内の企業から、事務機器(事務机 16/椅子 11/キャビネット 6/更衣口ツッカー 1 計34点)の提供があり、8月2日に第1号の内覧会が開催されました。

当日は、うだるような暑さの中、物品の運搬と保管を引き受けていただいたNPO法人 神戸西助け合いネットワーク(理事長 在里 俊一..神戸市須磨区西落合)の敷地をお借りし、7団体(NPO法人 5、ボランティアグループ等 2)との間で、7割を超える物品(73・5%・25/34)のマッチングが成立しました。

初めての試みでもあり、引き取り手数料も設けたため不安を抱いていましたが、結果をみる限り、その後の引き合い(97%・33/34)もあり、100%近いマッチング率を示し、ボランティアやNPOにとって、非常に



③ 物品を満載し、会場出発



② マッチング成立



① 譲渡品のクリーニング

ニーズの高い仕組みであることが明らかになりました。

ただ、初回ということ、かなりの手間と労力を費やしたことが反省点として残り、これを今後の教訓として生かし、システムの信頼性(継続性)と効率性を高めていきたいと考えています。とくに提供資機材の種類が多様化すると、保管や整備に問題が生じることも考慮しなければなりません。

4 今後の方向性



今回は、資機材のマッチングを実施しましたが、今後は、社員やスタッフの人材交流、技術やノウハウの提供などの人材マッチングを重ね、試行的運用と検証を通して、全体スキームを段階的に固め、近い将来、このシステムが企業とNPOの思いを橋渡しし、“人と人” “組織と組織”をつなぎ、広く市民発の“企業・NPOの新たな協働”を促す交流の場として定着することを目指したいと考えています。

このシステムは一からともに創り上げていくものです。この趣旨にご理解・ご協力いただける企業やNPOの方を多く募ります。是非ご活用ください。

紹介します

ボラセンの取り組み

災害が起きる前から・・・



今回は
【香美町】

9月3日(日)に、香住福祉村やすらぎの森(美方郡香美町)で行われた兵庫県合同防災訓練に香美町社協が参加し、「災害ボランティアセンター」(以下、災害VC)の立ち上げ訓練を実施しました。

訓練には地元住民をはじめ豊岡市社協、但馬県民局、ひょうごボランティアプラザ、コープこうべなどから約70名が参加しました。

福祉救援とボランティア

訓練では、震度6強の地震にともなう家屋倒壊と火災発生を想定し、まず災害VCの開設、ついで住民からのボランティア派遣要請の受け付けと順調に救援体制が立ち上がりました。山間部の多い地域なので、道路や通信網の途絶に備えて無線ボランティアの活用を組み込んだ内容が印象的でした。ボランティア受付窓口は地元住民や神戸からのボランティアの列ができるなど、熱のこもった訓練に社協スタッフの対応も真剣でした。参加住民から、「実際の災害で自分に何ができるかを考えるいい機会だった」との声

も聞こえました。

また、この立ち上げ訓練と併行して社協内に設置された福祉救援対策本部では、ケア付避難所の開設や、在宅被災者生活支援業務部門による高齢者安否確認が、ボランティアにホームヘルパーが同行して実施されました。地元住民のサポートにより、地域の高齢者や地区長の自宅を訪れたボランティアは、スムーズに住民ニーズを把握することができました。

マニュアルと柔軟な対応

訓練後の反省会では、支援打ち切りの判断基準や、個人情報取り扱いなどボランティアが直面した問題が報告され、災害VC運営におけるマニュアルの必要性について議論されました。ニーズ把握の場面でも、災害VC運営に当たる関係者が的確な情報収集技術を身につけることの重要性など、現場から学んだ教訓を共有できました。

また、NPOや行政、住民などと協働して運営することで、多様性と専門性を生かして被災地でのニーズに対応

できるようにするという意見も、さらに検討すべき課題だと思われます。

今回の訓練を通して災害VC運営の大切なポイントは、「的確なニーズ把握にもとづく柔軟な対応」、「ボランティアが活動しやすい環境整備」、「ニーズ把握などでの行政との連携の重要

性」とまとめることができます。

平常時の活動とのつながり

地域の福祉力を生かしたコミュニティワークの延長線として、社協が災害VCを運営する意味があります。災害時には被災地でのボランティア活動支援が重要ですが、平常時には、小地域福祉活動など住民相互の見守り活動に取り組みことが求められています。

香美町香住支所

においては、日ごろから小地域福祉活動が活発で、災害時にも住民のネットワーク機能を発揮することが期待されます。

香美町社協では、この訓練での成果と課題を反映した災害マニュアルを年度内に策定する予定です。

香美町ボランティアセンター

〒669-6545 美方郡香美町香住区森31-1
TEL 0796-39-2050 FAX 0796-39-2150

●受付を待つボランティア



チャレンジ事業助成

このコーナーでは、ブラザが展開する多彩な助成事業に採択された団体とその事業内容をご紹介します。本号では、前号に引き続き、地域の課題解決に向けて、果敢にチャレンジする団体に対する「チャレンジ事業助成」に採択された尼崎市の2団体から、事業についてご紹介いただきます。

特定非営利活動法人 愛逢

現在週3日の配食サービス(夕食)を毎日型(月~土)に拡大する

生きていく上で食生活の重要性は高く、高齢者にとつてはなおさらです。現状では高齢者のひとり暮らしや、高齢夫婦世帯の食生活は十分といえず、地域のケアマネージャーや訪問看護師等地域福祉に関わる人達から、毎日型配食サービスへの要望が数多くありました。

1994年に阪神医療生協組合員くらしの助け合い「愛逢くらぶ」として発足し、10年間の活動を経て法人格を取得したNPO法人愛逢は、今回週3日行っていた配食サービス(夕食)を、このチャレンジ事業を機に毎日型(月~土)へと拡大しました。

旬の物を取り入れ、冷凍食品を一切使用せず、栄養バランスが良く、見た目も美しいものであるよう心がけ、キザミ食、おかゆ、ご飯の多少など出来る限り要望に応え、保温容器で温かい状態のお弁当を利用者宅に届けています。

一方、この事業は当法人のミッションの一つである『地域の担い手を育てる』という観点においても重要な役割を担っています。

配食サービスはどなたでもボランティアとして参加できます。特に、この活動が定年後の男性の社会参加のきっかけとなった例を数多くみてきました。

「こんにちはお元気ですか、お弁当です。」「いつもありがとうございます。」この短い会話がお互いの心を豊かにしてくれます。ボランティアにとっては、

明日も頑張ろうという励みになり、高齢者にとつては安否確認にも繋がっています。

今後も、配食サービスが、地域住民一人ひとりが社会の担い手へと変わっていく活動であること認識し、介護系NPOとして地域社会に貢献できるよう助け合い活動に取り組んでいきたいと考えています。



特定非営利活動法人 愛逢
理事長 坂本 敬子
〒661-0972
尼崎市小中島1-20-21
TEL 06-6493-1424
FAX 06-6493-1443
E-mail npoaiiai2004@tiara.ocn.ne.jp

特定非営利活動法人アップストリーム 障がい者支援センター

小規模多機能な

コミュニティレストランの設立

私達は「障がいがあっても 自由に 楽しく 自分らしく生きたい」を団体のテーマに1999年10月に障害者作業所を尼崎市に設立しました。2002年6月にNPO法人格を取得し、2003年4月からは障害者支援費制度によるヘルパー派遣を始めました。現在も障害児(者)と言われる

方々の生活を支援する為の訪問介護と、社会参加を支援する外出介護の事業を行っています。

3年前の団体内の会議で、地域の人達と障害者が共に生き生きと働き交流出来る「コミュニティレストラン(以下コミュニティ)」を作りたいという夢を私達は持ちました。地域にはさまざまな分野で、素人でありながらプロ顔負けの技術や情報をもった「達人」と呼ぶに相応しい人材がたくさんいます。彼らは貴重な街の財産であり、その能力を地域のために生かしていくことで、より豊かな地域社会が実現します。そんな「達人市民」たちに「ワンデイシェフ」という形で自己実現の場を提供し、得意な能力を持ち寄って運営する「コミュニティ」を地域づくりの拠点にしていきたいと思っています。

今回、チャレンジ事業の助成金を受けて6回のワークショップ講座を開催し、地域課題の解決の手法を学び、1月下旬には5日間の市民活動カフェを開店しました。7月にもコミュニティ講座を開催し、登録ワンデイシェフの募集を始めました。2006年12月には念願のコミュニティの開店を予定しています。どうか御支援をお願い致します。



特定非営利活動法人
アップストリーム障がい者支援センター
理事長 本村 晃一
〒660-0814
尼崎市杭瀬本町1丁目23-2 カーサフジ1102号1
TEL 06-6483-4588
FAX 06-6483-4587
E-mail upst@nifty.com
URL http://homepage2.nifty.com/upst/

県内各地の教育現場で、学生達の発想や授業で学んだ技術を活かして、地域に貢献する取り組みが行われています。

●高校生が実施するファッションショー

龍野実業高等学校デザイン科では、学習成果の発表の場として、1年生から3年生の有志80名が約半年をかけてファッションショーの衣装デザイン、製作、ショー本番までの全てを企画、実施しています。

従来、校内で行っていたファッションショーを、平成14年にたつの市龍野地区の歴史的景観保存地区活性化イベントとして、「うすくち醤油資料館前ビル」で行ったところ、市民の反響を呼びました。以来、高校生と地域の交流の場として校外で開催しています。平成16年には、地場産業の皮革組合との連携により、価格の問題で難しかった皮革を使用した衣装製作も実現し、デザインの幅も広がり、地域色あふれるショーとなりました。



2日間で4公演し、2,000人の観客を動員したショー。(H17)

これを契機に、ショーと組合の即売会の皮革まつりを合同開催し、今までの5倍規模のイベントとなり、地場産業のPRにも貢献しました。これは、地産地消の機運の向上にもつながっています。

●きつかけは自分達のやりたいことから

注目すべきは、高校生が各自の得意分野で地域と関わり、主体的に活動できていることです。

ショーの実現にむけて大人達との交渉なども貴重な社会経験となつています。また、自分達に足りない技術は、地元の人などに協力を得て行います。そんな時彼らは、大人達の技量の高さを実感すると言っています。

●高校生が縁で広がるまびらび

龍野地区は、平成2年に景観形成地区(県条例)の指定をうけてから16年間、行政やまちづくり協議会など多くの住民団体が町並み保存や活用に尽力してきました。

町並みを活かした芸術イベントの「町じゅう美術館」では、高校生がまちづくり協議会と連携し、町内23店舗で作品展示や体験教室を4日間実施しました。

地域からは、「今の若い子は」というが、外見だけで判断するのは良くないと分かった。など高校生の地元での評判も上々、顔の見える関係が広がりました。

他にも小学校、大学と連携し商店街の賑わいづくりも行っており、高校生が潤滑油となり、地域はつながりを深めています。

今や高校生パワーは地域づくりに欠かせないものとなっています。



皮革のプロから取り扱いを教わっている様子

兵庫県立龍野実業高等学校
デザイン科
〒679-4171
たつの市龍野町北龍野268番地1
TEL 0791-62-1181

高校生と地場産業者のいい関係

たつの市皮革組合

Q 高校生との関係についてお聞かせ下さい。

A 私たちは加工業者に出荷する皮革の一部分を確認用に切り取り保存しています。見本としての役目を終えた皮を、無償提供しています。素材提供だけでなく、取り扱いから加工技術等、龍野に暮らすプロの技術者を紹介し、製作工程においてもサポートしています。

今年度から、皮革の授業にも携わっていますが、生徒たちの関心の高さに驚いています。

Q 高校生との取り組みによって変化したことは?

A ファッションショーに使う皮革は、高校生からのデザイン画をもとに、プレゼンテーションをうけて提供を決めます。革の色あいや厚みなど細部にわたって意見交換します。結果、よりデザインイメージに近づけるために特注品を作り提供することもしばしばです。この高校生とのやりとりから新しい質感や配色の皮革も生まれています。

私たちの感覚にない新鮮な意見を聞くことができ、刺激を受けています。

Q この取り組みで大切にされている事は?

A 高校生や若い世代が、地域の特産品や故郷に愛着をもって過ごせるということです。龍野・姫路の製革業は技術力も高く、全国シェア70%を誇っています。しかし、素材産業ゆえに、そのめんどや醤油に比べ一般的に地場産業としての認知度の低さを感じていました。

この取り組みで、今まで皮革に関心のなかった生徒たちが、皮革のよさを感じ、ものづくりの魅力や地場産業への理解が深まっているように感じます。これは、私たちにとても、地域にとっても心強く励みになっています。

オレンジ色のみみずく隊

浜町メンズクラブ(芦屋市)

毎週一回夜、「みみずく」をデザインしたオレンジ色のジャンパーを着た男性グループが、浜町の街角に現れます。平成15年に結成された自主防犯グループ「浜町メンズクラブ」メンバーたちの夜回りパトロールです。

当時、浜町周辺ではひったくり、車上狙い、空き巣などの犯罪が増え、深刻な問題となっていました。自治会役員60数名のうち男性は2、3名。そこで、危険を伴うことも予想される防犯活動に、自治会役員の夫や老人会、子ども会のお父さんたちが中心となって、地域の男性が立ち上がりました。

日常の防犯意識

現在、浜町メンズクラブでは夜間パトロールのほか、登下校時の安全指導とあいさつ運動、『浜町安全ニュース』の発行、ホームページによる犯罪情報の提供などの活動を42名の男性が行っています。

「無理をせず、みんなで楽しく、自分でやれることを毎日やろう。」を活動の基本に、それぞれができる時間、できる活動に参加しています。

クラブとして活動する時間だけでなく、メンバーがふだん街を歩く時に、空き地や駐車場に不審者がいないか、街灯切れがないかなどのチェックを心がけるといった、日頃から防犯の意識を持つことが地域の安心・安全につながっています。



安全指導とあいさつ運動

浜町メンズクラブ

問い合わせ先
〒659-0025 芦屋市浜町7-3 細谷 豊司
TEL 0797-22-3515 FAX 0797-22-3782
URL <http://www.cyounaikai.com/6590025/>

(取材：地域活動コーディネーター 高村 有子)

地域の中で生きる

活動を進めるうちに変わってきたものは、地域の安全だけではありませんでした。子どもや地域の人たちから頼りにされ、感謝される喜びを知ったメンバーが生き生きとしはじめたのです。職場と家しか知らなかった人やリタイアして家に閉じこもりがちだった人が、地域の中で生きていることを再確認。そして、クラブの活動以外にも行動的になった男性たちは、家庭内での地位もアップしたそうです。

クラブを中心として地域全体にコミユニケーションが生まれれば、犯罪の起りにくい雰囲気を出し、安心・安全な町をつくるのが出来ます。

浜町メンズクラブでは、自分たちの活動の設立経緯や体験談をホームページで積極的に紹介していますので、ぜひご覧ください。

広がれ! V-NET

多彩な人材を擁してシニア世代を応援 兵庫県健康生きがいづくり協議会(明石市)

「会社人間から社会人間へ。団塊の世代が地域にどう参加していくかが2007年問題として関心を集めています。地域活動への参加は、団塊の世代のセカンドライフを充実させるための生きがいづくりにつながります。そんな、中高年者の健康と生きがいづくりの支援活動に取り組んでいるのが、兵庫県健康生きがいづくり協議会(以下、協議会)です。

協議会は、(財)健康・生きがい開発財団の認定を受けた健康生きがいづくりアドバイザー有志により平成7年11月に発足しました。

発足当初は仮設住宅の住民を対象に、「健康・生きがい・ふれあいセミナー」を開催していました。ストレッチ体操やゲームなども取り入れた被災者の交流の場は、いつも笑いに満ちていたことが、今でも会員の印象に強く刻まれているそうです。

現在は、県内各地の施設や企業・団体などで活動しており、60〜70歳代のシニア層に対する健康保持と生きがい探しの実践講座、ニュースポーツの普及活動、認知症予防啓発、転倒予防体操、高齢者による高齢者支援ができる人材の養成など多彩な活動を展開しています。

また、会員手づくりによる「コント劇『ぼけたらあかん』や『だまされたらアカン』などのユニークな活動は、県外からも上演依頼があるほど好評です。



老々支援実践講座

最近では、子どもの遊びの研究が専門の会員を中心に、子育て支援の活動もスタートしました。

「団塊の世代は新しい地域の社会資源です。この人たちの活躍の場をどう作っていくかが、これからの地域づくりのキーワードではないでしょうか」(佐野会長)。

兵庫県健康生きがいづくり協議会の出番はますます多くなりそうです。

兵庫県健康生きがいづくり協議会

〒674-0067
明石市大久保町大久保306-1103
兵庫県健康生きがいづくり協議会
TEL 078-935-7073
FAX 078-935-7917
URL <http://kenkou-kyougikai.seesaa.net/>

(取材：地域活動コーディネーター 松本 竹生)

今回は、前回少しだけお話ししたバランス・スコア・カード（以下BSC）について紹介しましょう。

BSCとは、組織の将来構想や使命などを「画に描いた餅」に終わらせず着実に実現させていくための手法です。ここでは、最終目標の達成のために、「財務の視点」、「顧客の視点」、「業務プロセスの視点」、「学習と成長の視点」といった4つの視点から日々の活動目標を設定します。具体的には、スタッフやボランティアの能力向上目標の達成（学習と成長の視点）が、仕事や活動目標の効率的な達成につながり（業務プロセスの視点）、それによってお年寄りや障がい者などのサービスの受益者の満足度目標が達成され（顧客の視点）、最終的には、料金収入の増加、社会的意義を評価する行政からの業務の受託、企業や地域住民からの寄付の増加という効果（財務の視点）に結実し、組織の将来構想や使命の実現に結びつくわけです。

将来構想や使命とは、組織の将来のあるべき姿や社会的存在意義を示した最終目標ですから、BSCを作成することは、組織メンバーが最終目標を常に意識・共有し、その達成に向けて日々どのような活動をしていくべきかを考える癖をメンバーにつけることができます。

つまり、BSCは組織の未来に向けて日々の仕事や活動を方向付けて、実行するツールなのです。BSCを活用して、貴方の組織の未来を考えてみませんか。BSCを導入しているNPOはまだまだ少ないですが、今回はこの手法を導入して「考える組織」を実践しているNPOを紹介しましょう。

●連載 NPOワンポイントアドバイス● One Point Advice vol.2



兵庫県立大学経営学部教授 富間 克雄

やってみよう☆情報発信 コラボネット

♪ 紹介します！私たちの地域づくり活動 ♪ アクティブ・8^{エイト} 【神戸市長田区】

ひょうごボランティアプラザでは、子育てや高齢者の支援、緑化活動、交流行事などのボランティアな活動を、『地域づくり活動システム～コラボネット～』で発信しています。

今回は、コラボネットからたくさんのイベント情報を発信している「アクティブ・8」をご紹介します！

★コラボネットをどのように使っていますか？

自分たちでホームページを管理し、運用するのは大変なので、広報のツールとして便利なコラボネットを自分たちのホームページとしてイベント案内の広報など、情報の発信場所として使っています。また、他のホームページから、コラボネットのイベント情報をリンクして、相互に活用しています。

★広報されているイベントについて教えてください

色鉛筆で描く仏画の絵画展や、音楽のコンサート、社交ダンスなどたくさんのイベントの広報を行っています。事務所のある長田区の清涼山地蔵院内にはグランドピアノを常設し（写真）、コンサートの場所にも使っていただけます。企業からもイベントの要請があり、地域の活性化、芸術文化の普及の寄与に努めています。地域に新しい人が入ることの出来る環境を作るために、これからも多様なイベント、講演会などを企画し、みなさんがホッとできる空間を作っていきたいと思います。

他のホームページとコラボネットをリンクすることによって、さらにたくさんの人たちに活動をPRすることができますね。もちろんイベントの広報だけでなく、アクティブ・8のように活動スペースを提供されている場合、「場所」など支援の情報を登録することもできますよ！詳細は下記までお問合せ下さい！

地域づくり活動情報システム(コラボネット)とは・・・

県内の「地域づくり活動」に関する情報を、インターネットを通じて広く発信し、情報の共有化、さらには団体相互の連携、交流のきっかけづくりを支援することを目的とした情報システムです。コラボネットを利用して情報発信を希望される方は、ID（活動団体番号）とパスワードを発行しますのでプラザまでお問い合わせ下さい。

TEL 078-360-8845 FAX 078-360-8848 コラボネット専用E-mail info@hyogo-vplaza.jp



地域づくり活動情報システム
コラボネット
www.hyogo-vplaza.jp

● 寄付をいただきました。
(平成18年4月～9月)

ひょうごボランティア基金へのご寄付、
ありがとうございました。

皆様からいただいたご厚志については、
ボランティア活動支援や友愛事業に活用
させていただいています。

ボランティア活動支援事業へ
寄付いただいた団体・個人
(五十音順・敬称略)

(株)アオノリゾート

三宮センター街1丁目商店街振興組合

三宮センター街2丁目商店街振興組合

三宮センター街3丁目商店街振興組合

兵庫県茶道協会

友愛事業へ寄付いただいた
団体・個人(五十音順・敬称略)

(株)関西スーパーマーケット

幸せを分つ会

NPOパワーアップ事業助成

NPOについての社会的な認知度と信用を高めることを目的として、NPO団体の積極的な情報公開と、広報・普及啓発活動の促進、組織としてのマネジメント能力の強化などを図るため、次の5項目のうち3項目以上を達成した団体に対して助成します。

- ① ITの活用による情報公開
- ② 定期的な機関紙、情報紙の発行
- ③ セミナー・講演会等の開催による団体ミッションの普及啓発
- ④ 役職員のスキルアップのための研修会等への参加
- ⑤ 団体のマネジメント能力向上のための体制整備

募集期間 平成18年10月16日(月)～12月27日(水)

助成金額 1項目5万円(各項目1回限り)

NPO活動応援貸付 2次募集のご案内

兵庫県内で行われているNPO活動の継続、さらなる発展の応援を目的として、貸付事業の2次募集を行います。詳細はプラザまでお問い合わせください。

募集期間 平成18年10月10日(火)～11月24日(金)

申込ができる団体は 兵庫県内に主たる事務所を置いており、1年以上継続して県内で活動しているNPO法人又はNPO法人に準ずる団体

貸付額は 50万円以上300万円以下

利率は 年1.75%(1次募集と利率変更)

返済期間・方法は 5年以内(うち6ヶ月以内据置可能) 元利均等月賦方式による返済

連帯保証人 貸付希望団体の代表者のほか、2人以上必要

※貸付希望金額が50万円で、委託金もしくは補助金等の交付が確定しており、かつ、これらが支払われるまでのつなぎ資金として借り入れる場合は、書類による審査で決定します。

ひょうごボランティアスクエア!

●と き 平成19年1月28日(日) 10:00～17:40

●ばしょ イーグレひめじ(JR・山陽姫路駅 北に徒歩15分)

阪神・淡路大震災を契機に盛り上がったボランティア活動を定着させ、さらに広げていくために、地域・分野・セクターを越えて、交流・情報交換を図ることを目的に開催します。

●開催内容

ボランティア・市民活動元気アップアワード あいめっせホール

プレゼンテーション 10:00～12:00 審査発表 17:10～17:40

県内のボランティア・市民活動団体の優秀な企画や素晴らしい活動に対して賞(賞金)を贈ります。今年のグランプリはどの団体に!

ひょうごボランティア・市民活動フォーラム あいめっせホール 13:20～17:10

～「コミュニティ再生」はみんなの力で～

今年のテーマは「コミュニティ再生」です。地域課題の解決のためには、地域コミュニティの再生を図ることが大切です。地域に存在する様々な課題をテーマに話し合いながら、コミュニティの再生や地域課題解決への糸口について皆さんで考えてみませんか?

地域活動パネル展 1階アトリウム 10:00～17:00

1月20日(土)～2月1日(木)にかけて、県内各地の地域活動・ボランティア活動の取り組みのパネル展を開催します。

●お問い合わせ先

ひょうごボランティアプラザ(担当:高橋)

TEL:078-360-8845 FAX:078-360-8848

http://www.hyogo-vplaza.jp E-mail:vplaza@hyogo-wel.or.jp

